



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

「顔晴れ」＝ 声出せ 汗出せ 知恵を出せ ＝

～まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和6年9月18日
(文責) 校長 野津

＝ 挑み続ける2学期に！＝

今年の夏休み、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。記録的な猛暑が続く毎日でしたが、パリで行われたオリンピックは大いに盛り上がりましたね。始業式でも触れました。

数えあげたらきりがありませんが、日本の立場からオリンピックのワクワク感とドラマチックな逆転劇に注目すると、あと一歩のところまで勝利をつかみきれなかった競技もいろいろあり、勝負の厳しさをつくづく思い知らされました。また逆に、メンバーの不調が続いたものの最後の鉄棒で大逆転して栄光をつかんだ体操男子団体や、できていたはずの試技が失敗続きの状況にあって、それでも最後の1回に高難度の技を成功させたスケートボード堀米雄斗選手の金メダル獲得などは心が震えました。

そして、それにも増して、甲子園にて快進撃を続け、多くの人に大きな感動を与えた島根県代表大社高校の選手や応援団の話題は、印象深いものとなりました。

連日報道されたオリンピックの熱戦や、ひたむきに戦い続けた高校球児の姿からは、改めて自分の力と仲間を信じ、逆境にあって最後まであきらめず粘り強く挑戦し続けることの尊さが伝わってきました。



また、オリンピックに比べると、テレビ中継が極端に少なかったパラリンピックでしたが、自分自身の可能性に挑戦し続けた多くのアスリートの皆さんのパフォーマンスには大きな感動を覚えました。世界中から集まった車椅子の選手、目の不自由な選手などが、自らの努力や工夫で様々な壁を乗り越え、支えてくれた周りのチーム関係者や家族に感謝しながら、プレッシャーのかかる大舞台上で精一杯の力を発揮する姿は、障がいのあるなしにかかわらず、自然と胸が熱くなりました。3年前、無観客のなかで開催された東京パラリンピックの際の「I'm POSSIBLE」というキーワードが、私は何度も心の中でよみがえり元気と勇気をもらいました。

始業式の日以降、各学級においては、これから2学期に控えている活動や学習を「がんばっていこう」「チャレンジしていこう」という声がたくさん響き渡りました。校内音楽会や各学年で計画されている大きな行事は、楽しみでもあり、一人一人が大きく成長するチャンスでもあります。

何かが起こりそうな気配のことを【兆し】といいます。まさに今、一人一人がパワーアップしていく明るい兆しが見えています。なかなか思うようにいかなかったり、たいへんだったりすることもあるかと思いますが、みんなで励まし合いながら、「兆」という字に「逃(しんにょう)」をつけた【逃げる】のではなく、「扌(てへん)」をつけた【挑む】毎日を送っていききたいものです。

今回のパラリンピックの日本選手団スローガンは「挑め 自分史上最強」でした。乃木小学校の子どもたちにも、自分の力を最大限に発揮し、自分の弱い心や苦しい場面にも負けないで、友だちにも優しく、協力し合いながら行動していくことの価値や喜びを味わってほしいと思っています。「決して人と比べたり、競争したりするだけでなく、難しいことや辛いことにくじけず、これまでの自分を超えていけるよう、最後まで粘り強く挑戦し続けていくことこそが自分自身にとっての輝かしい『金メダル』だ」とよく言われます。私たちもそういう思いで支えていけるようベストを尽くします。



＝ 一人一人を大切に つながり合っ て ＝

保護者の皆様には、先日の授業公開日に多数お出かけいただきありがとうございました。この日は学年ごとに、命、性、障がい、差別など「人権学習」に視点をおいた授業も公開しました。

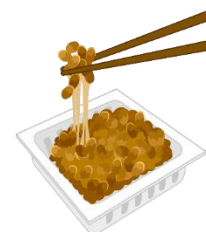
現在「校内人権月間」として、取組を強化しているところです。乃木小学校の9月の生活目標は、**「友だちをたいせつにしよう」**です。来校された際お気づきになられたと思いますが、教室前の廊下や階段の踊り場には、全校児童一人一人が考えた人権標語がずらりと掲示されています。この標語づくりや授業公開日での学習を含め、折に触れて「人権」にかかわる学習や関連図書の読み聞かせなど取組を進めているところです。

ところで、皆様「納豆」はお好きですか？学校生活のなかで、学級や学年の集団として、子どもたちに求めたいものは、この「納豆」です。

どういふことでしょうか？・・・前述した「粘り強さ」？それもないわけではありませんが、その主たる意味は他にあります。一人一人が単独でバラバラの「いり豆」でもなく、元の姿がすりつぶされて個性の消えた「豆腐」でもなく、やっぱり「納豆」なのです。納豆は、一つ一つが存在を主張しながらも、それでいてみんなが関係し合っています。一粒一粒も大事だし、つながり合っているこの糸が集団の中で重要だと思ふのです。一人一人の個性と学級集団・学年集団の方向性を一致させながら歩んでいく営みを大切にしていきたいと考えています。そして、これは同時に私ども「学校の職員組織」としての在り方にも言えることであり、各自の個性と結びつきによって高い教育効果を発揮できる「納豆集団」として、学校教育を進めていきたいと思っています。

集団で暮らしていくうえでは、様々な場面で自分と友だちの考え方に違いが生まれてくるのはよくあることです。「あたたかい学校」をつくるには、自分の思いを押し付けるのではなく、「そんなふうを考える人もいるんだな」と気づき、時には譲り合っ て折り合いをつけていく力が不可欠です。いろいろな価値観があることを知り、自分自身を見つめ、振り返りながら相手の立場に立つとともに、適切に自分の心を言葉や態度で伝えることも必要です。

「校内人権月間」にあたり、大人も子どもも、改めて一人一人を大切に、そしてそれぞれがしっかりとした絆でつながり合っ た暮らしを築いていきたいと思っています。引き続き、ご協力をよろしくお願ひします。



＝ アンケート調査から ＝

1学期の終わりに、学校生活を振り返った意識調査を全校児童に行いました。それと同時に、教職員においても、子どもたちの様子について振り返り、データをもとに話し合いました。調査を集計してみると、子どもたちは様々な項目で概ね肯定的に受け止めており、数字としては良好な結果が表れましたが、次の点については、子どもたちと教職員との意識の中で若干の開きがありました。

子どもたちの肯定的評価はあまり高くないが、教職員から見た評価は高いもの

- ・たくさん本を読んだり図書館をよく利用したりしている
- ・授業中、進んで発表したり自分の考えを友だちに伝えたりしている

子どもたちの肯定的評価はかなり高いが、教職員から見た評価としてはもっと頑張っ てほしいもの

- ・安全に気をつけて、元気に過ごしている
- ・「おはよう」「さよなら」「ありがとう」など進んであいさつをしている

保護者や地域の皆様は、どのようにお感じになられるでしょうか。

一人一人の成長と、誰もがより良い学校生活を送るために、個々の自己肯定感を育みながら、良いところはさらに伸ばし、課題については繰り返し指導するとともに、機会をとらえて焦点化し改善を図っていききたいと思っています。